

ツルの自然体験学習会

平成18年度から毎年夏と秋に実施している学習会を、今年度も国土交通省中村河川国道事務所と協働で開催しました。四万十市立東中筋小学校の6年生と東中筋中学校の1年生がツル類について学び、越冬環境づくりに汗を流してくれました。

夏の
学習会
6月28日

昨年度越冬したマナヅルの様子や、国土交通省の四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)の話を真剣に聞いてくれた子どもたち。『ツルの里づくり』があったからこそ今もツルが来るので、取り組みをずっと続けていきたいと思いました」といった頼もしい感想をくれました。

※中筋川中山箇所湿地で予定していたえき場づくり(田植え)は、数日前から降り続いた雨により、残念なができませんでした。



ツルの里づくりの学習



昨年発行した「つるだより」も配布

秋の
学習会
11月12日

■中筋川の堤防で

学校の近くのいつも見ている田んぼでツルが安心して過ごせるよう、中学生が立札を建て、小学生が思いを込めて描いたポスターを貼り付けて、啓発看板を完成させました。

また、当会会員が今期のツルの飛来状況や観察時の注意などについて説明しました。

看板は堤防沿いにいくつかあります。
ぜひ探してみてください。



今季の飛来状況の説明



小学生の力作です!



中学生が看板を建てて



ポスターをていねいに貼り付けて



啓発看板の完成です!

■江ノ村箇所の水田で

当会が休耕田を復田し、会員が米作りを行って餌となる二番穂を残している水田に、ツルを呼び寄せるためのデコイ(模型)を設置しました。

また、用水路でとれた生き物の観察も行いました。水路は、国土交通省が魚などが中筋川と水田地帯を行き来できるように改良した樋門につながっており、豊かな自然環境が再生していることを学びました。



用水路の生き物観察



「デコイ」の設置

ツルを見る時の
お願い



ツルは非常に警戒心が強い鳥ですので、200~300m離れた場所から双眼鏡などを使って観察して下さい。写真撮影は望遠レンズを使いましょう。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel: 0880-34-4333 / fax: 0880-34-1451
mail: naka10@cciweb.or.jp



四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

四 万 十
つ る だ よ り

Vol.25 ●発行日/令和2年1月24日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
<http://www.nakamura-cci.or.jp/doc/tsuru/>

※本誌掲載のツル類の写真は、長年四万十市に飛来したツル類の保護にご尽力されていた故 澤田佳長先生、当会会員の夕郎興一氏他、また国土交通省中村河川国道事務所からご提供いただいたものです。

四万十市で3年連続越冬を記録!!

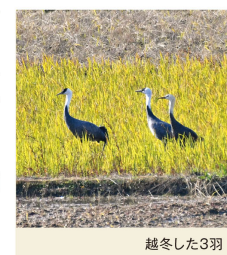


のんびりと餌をついばむナベツルの群れ(令和元年11月14日)

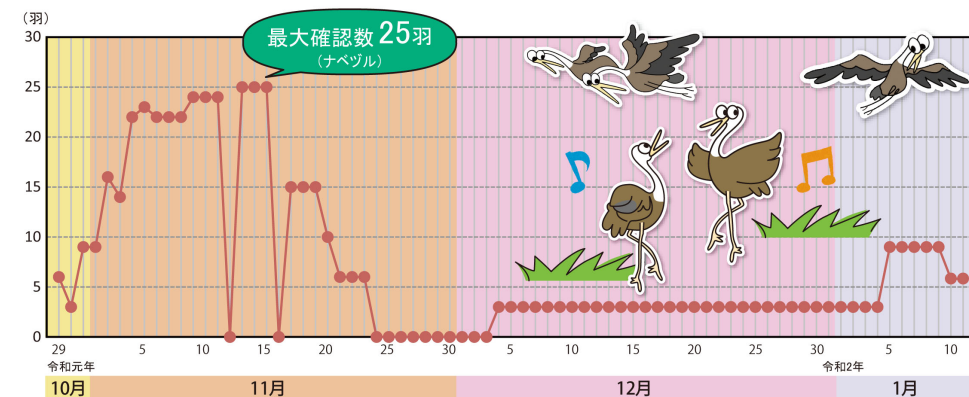
今年度は3羽のナベツルが越冬し、3年連続の越冬となりました。これは、四万十市における昭和47年以降のツルの観察史上はじめてのことです。

今年度飛来したのはすべてナベツルで、初飛来は昨年度と同じ10月29日でした。当初は6羽でしたが、11月中旬には25羽となり、昨年度の109羽と比べると少ないものの、ほぼ平年並みの最大確認数となりました。11月24日からはしばらくはなくなりましたが、12月4日に成鳥2羽と幼鳥1羽が四万十市に舞い戻り、1月に入って新たに飛来した6羽と縄張り争いを繰り広げつつも、中筋川の水田地帯でせっせと餌を食べ、北に帰るためのエネルギーを蓄えています。

北に帰る2月下旬頃までは、ツルを驚かせないように遠くから見守って下さい。



越冬した3羽



四万十市に降り立ったナベツルの数(1月11日現在の速報値)

注)飛来状況は、当会と高知野鳥の会、国土交通省中村河川国道事務所が連携して調査しています。